

## 多様な生物とともに宇宙船地球号の上で暮らす私たち

長野県飯田保健福祉事務所

所長 松岡 裕之

宇宙船地球号というコトバを初めて聞いたのは大学時代、岩村昇先生の講義の中でした。ネパールの人々のために、特に結核で苦しむ子供たちのために、その地に行って働いている岩村先生のことを高校時代に知り、私も発展途上国で医療活動をしたいと思い医学部へ進みました。その5年生の頃、岩村先生が公衆衛生の講義の一コマに来られたのでした。「ドクターイワムラは英単語を300ヶしか知らない。それだけの語彙数であっても平和のこと、不平等の是正について話し合いをし、合意形成ができる。だって私たちは皆、宇宙船地球号の乗組員なのだから。」45年前、そんな風に話されたことを鮮明に覚えています。

私は医師になってからは結核ではなくマラリアを専門にしました。結核とならび発展途上国の子供たちを苦しめている重要な疾患です。蚊によって媒介されるマラリアを研究する一方、その周辺の寄生虫病や衛生動物疾患についても学び、講義・実習も担当してきました。そこで私の得たものは「宇宙船地球号の乗組員は人類だけではない。いろんな生き物が押し合いへし合い乗っている。」という事実でした。医学部の教育というのはヒトに偏重していて、人類以外に目を向ける機会がとても少ないのです。蚊やダニはそれらに刺される・噛まれるだけでも不快なことですし、ましてはそれらによって病気になるなんて、ホントに嫌なことです。でも動物たちの方は人類発生の前から、そうやって営々生きてきたのです。

静岡県三島市は新幹線の通る文明の地かもしれませんが、信州飯田とさして変わらず山深い地も多く、蚊やダニのほかハチもいればムカデもいるでしょう。田んぼに入ればチスイビル、山を歩けばヤマビルが落ちてくるし、へビも出てくるでしょう。クマやイノシシに出会うこともあるのではないのでしょうか。サルやシカも里に下ってきますし。家にあってはほこりの中に、血液を吸わないヒョウヒダニがわんさと住んでいます。頭にはアタマジラミ、衣服にはコロモジラミ、陰毛にはケジラミが居つくことがあります。手指に疥癬が住み着き大量増殖に至る人もいます。

思えば新型コロナウイルスも「多様な生物」の一角です。すでに4種類のコロナウイルスが人類と共に住んでおり、今回の「新型」はその5番目として人類との共存に成功しつつあります。この3年間の新型コロナウイルスとの顛末を振り返りつつ、宇宙船地球号の新しい乗組員を見つめなおしてみたいと思います。